



IBM Software Group

WDZ導入手順と初期設定手順

WebSphere. software

ON DEMAND BUSINESS™

© 2007 IBM Corporation

導入順序

- Installation Managerの導入
- RAD、WDZの導入
- WDZの起動。
- サンプルプロジェクトの導入
- WDZのリモート設定と接続



Installation Managerの導入

1. DVD 1枚目の¥InstallationManager¥install.exe  をダブルクリックで実行
2. 下記画面が出るので「次へ」をクリック。

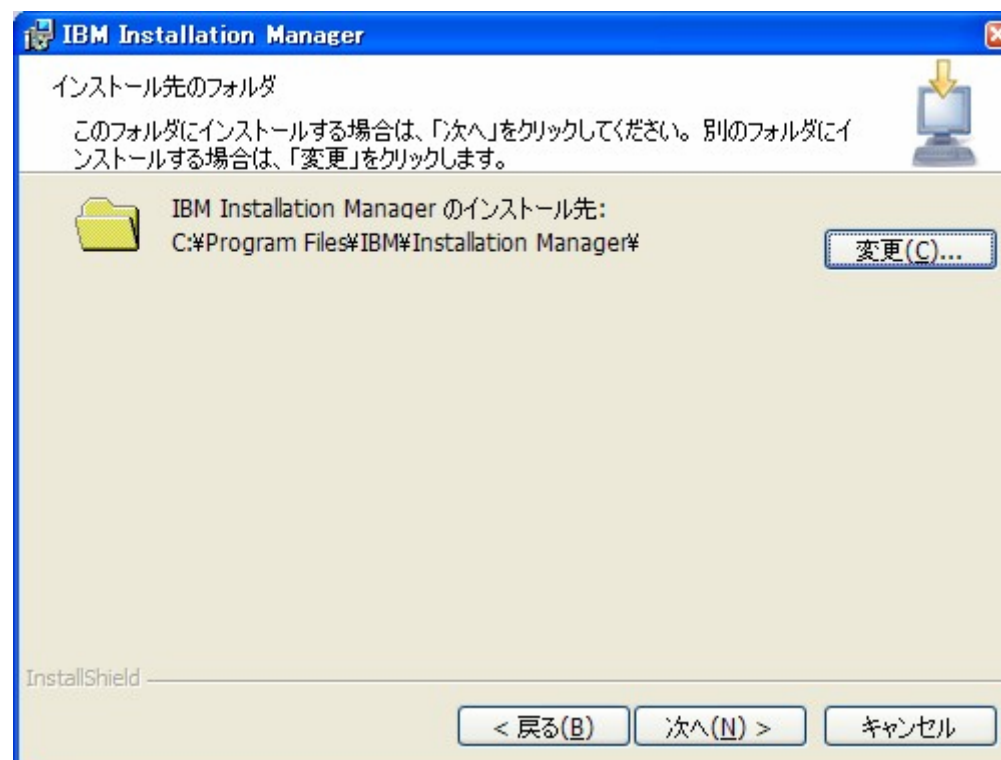


CD版WDZはP 8 へ！
P 8 以降の手順中に
Installation Manager
は導入される。

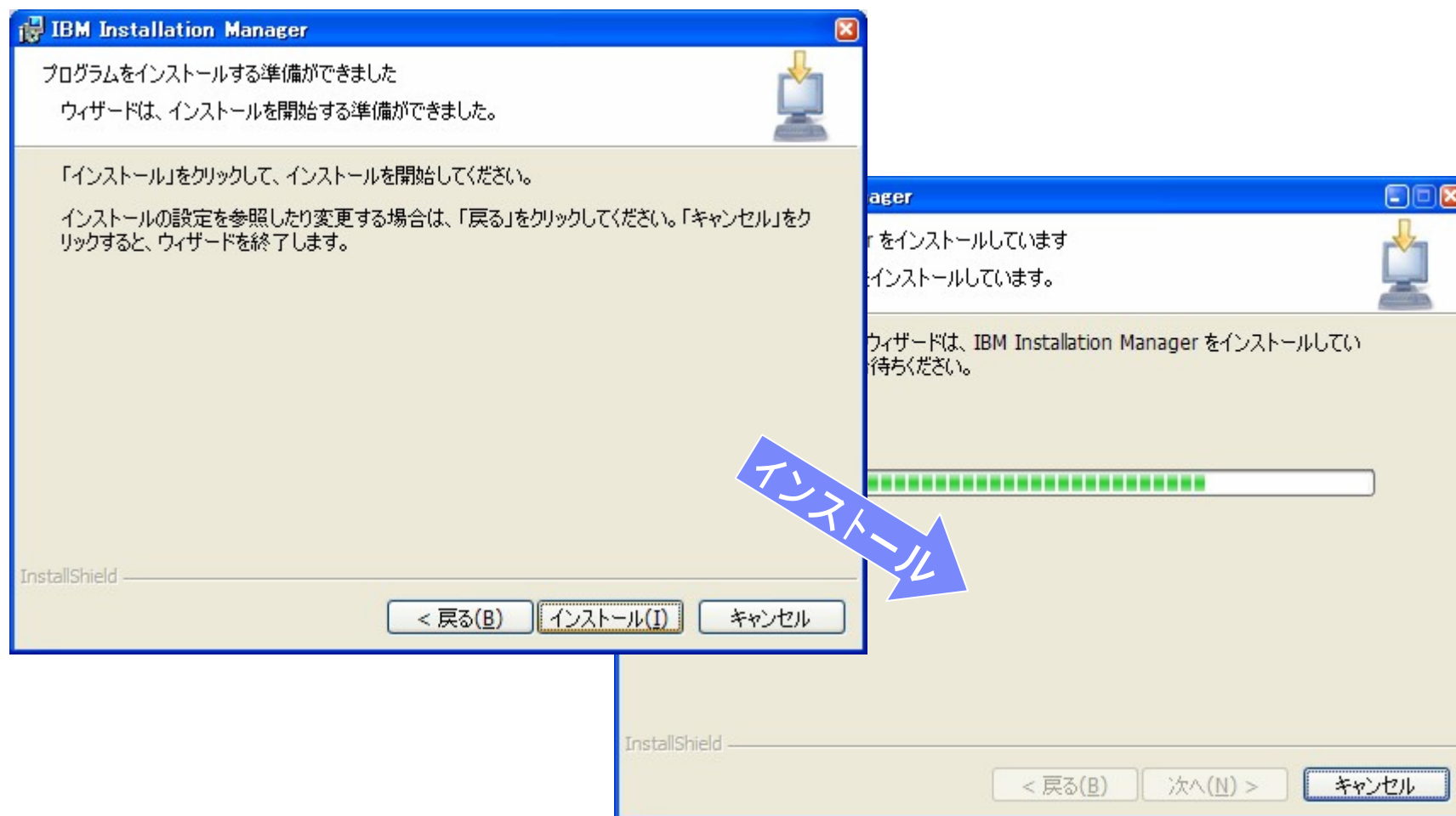
3. 使用許諾の確認画面で、「同意します」に マークをし、「次へ」ボタンをクリック。



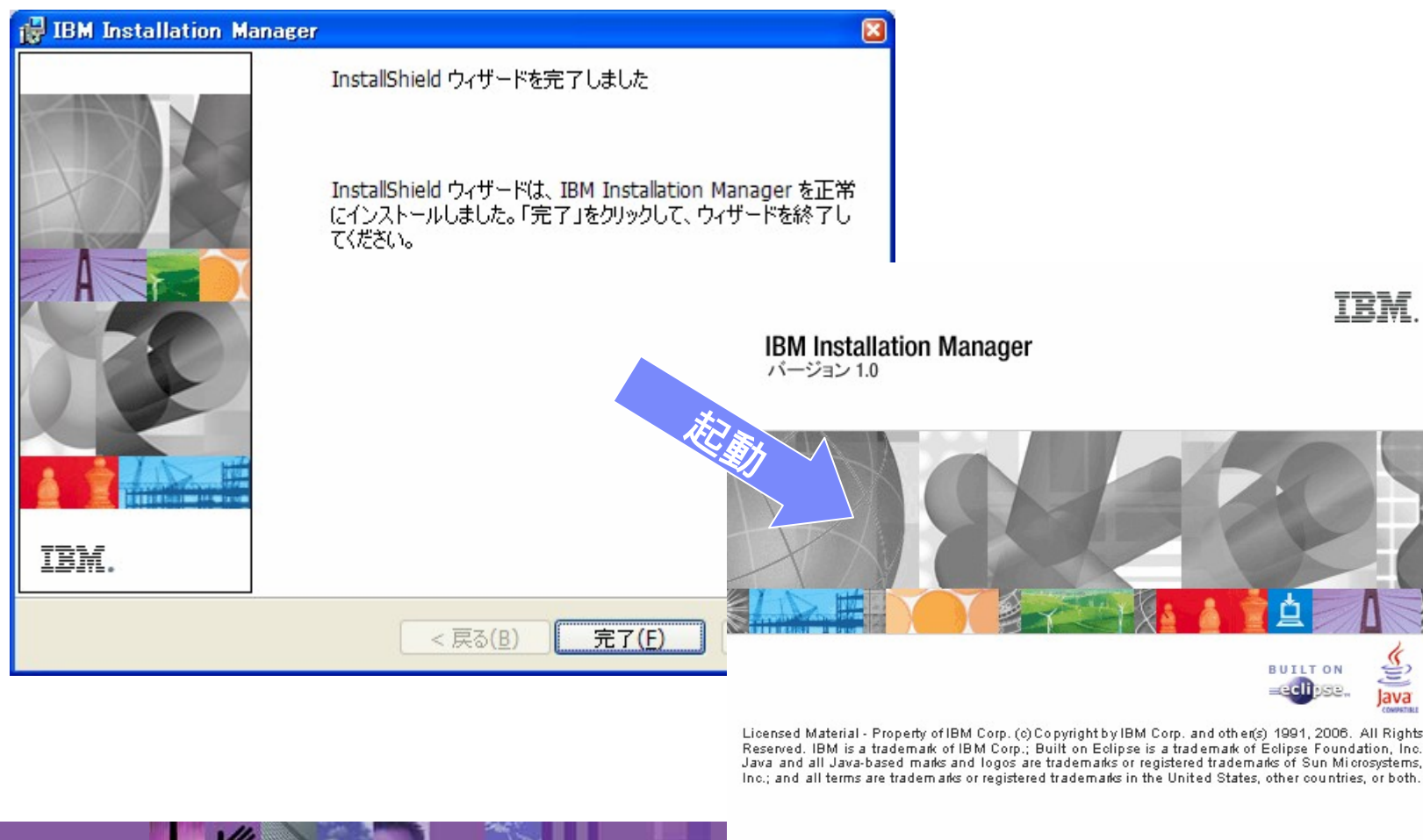
4. インストール先フォルダを変更する場合は、「変更」ボタンからフォルダを指定します。



5. 「インストール」ボタンをクリックします。 暫くインストール処理が続きます。

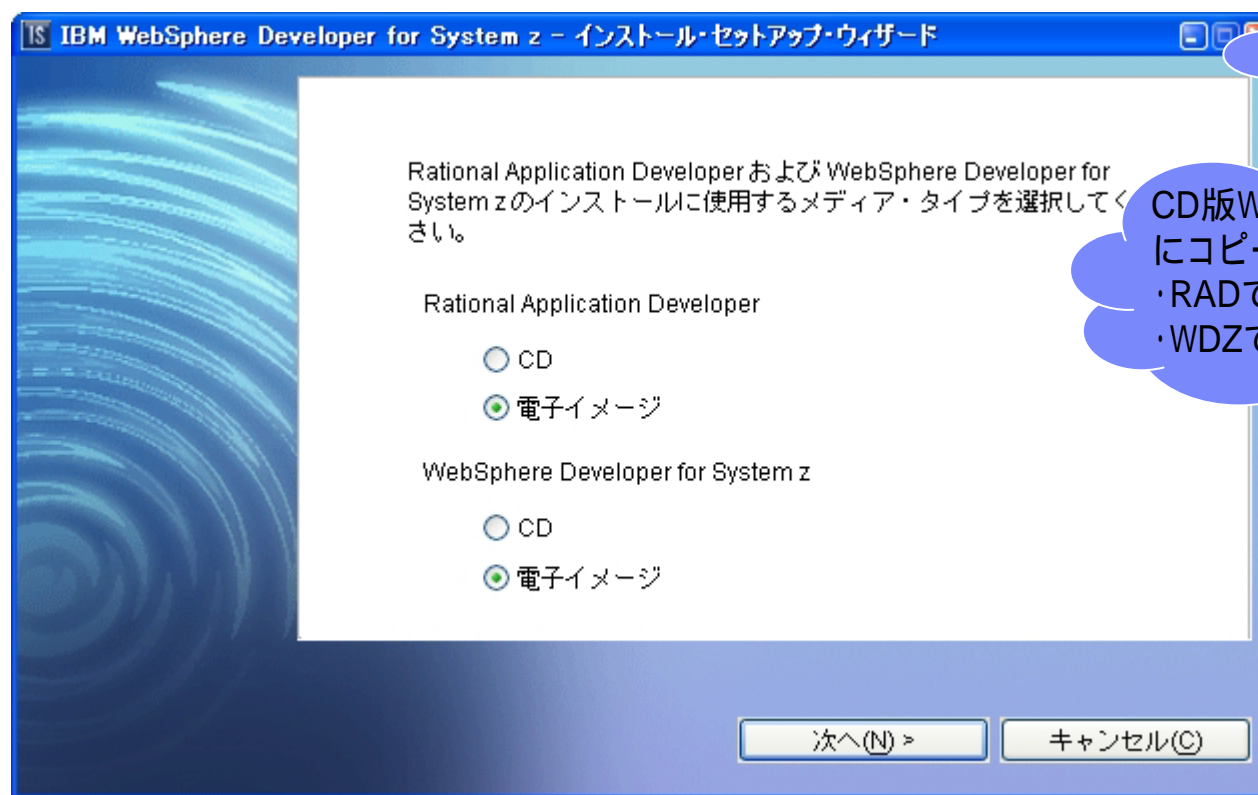


6. Install Managerの導入が完了しました。「完了」ボタンをクリック。
Install Managerが起動しますので、右上の「×」マークで終了します。



RAD、WDZ v7.0の導入

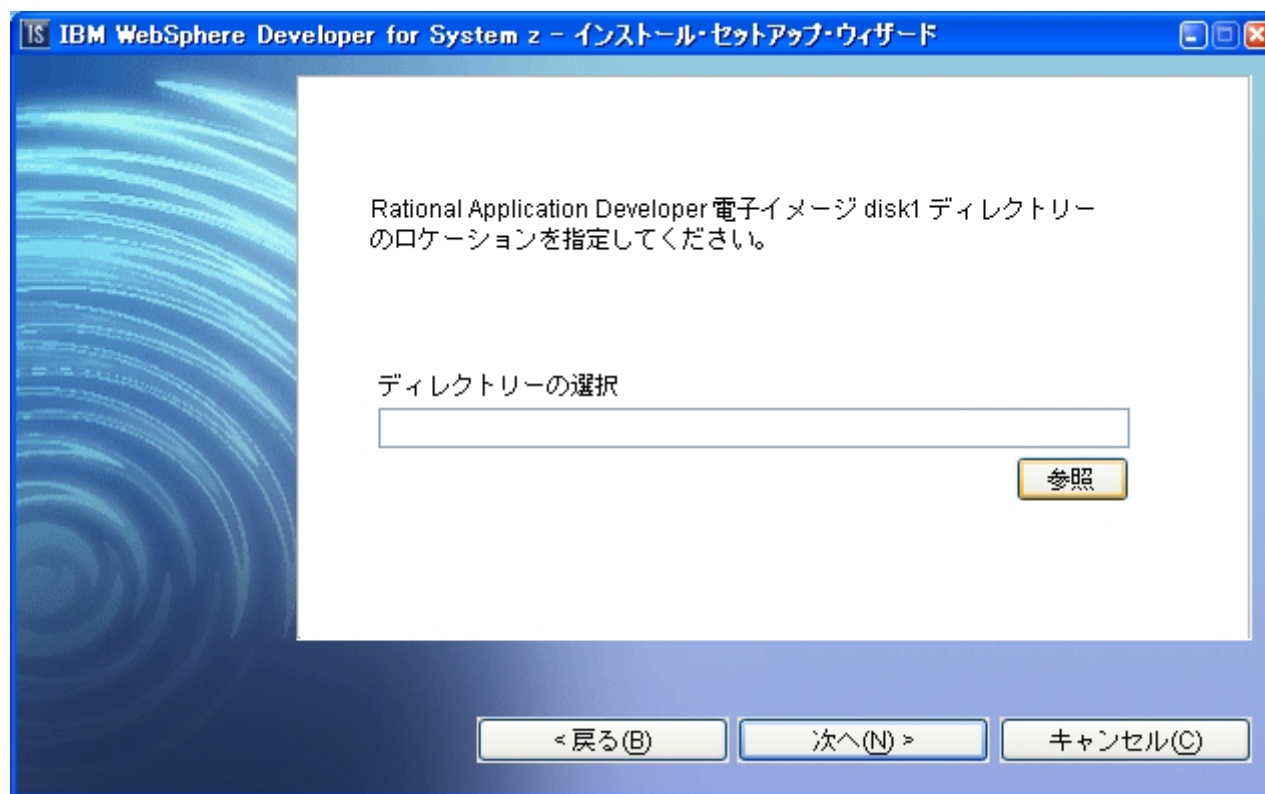
1. DVD 1枚目の¥wdz70¥disk1¥launchpad.exe  をダブルクリックで実行
2. 下記の画面でRAD、WDZそれぞれ「電子イメージ」を選択し「次へ」をクリック



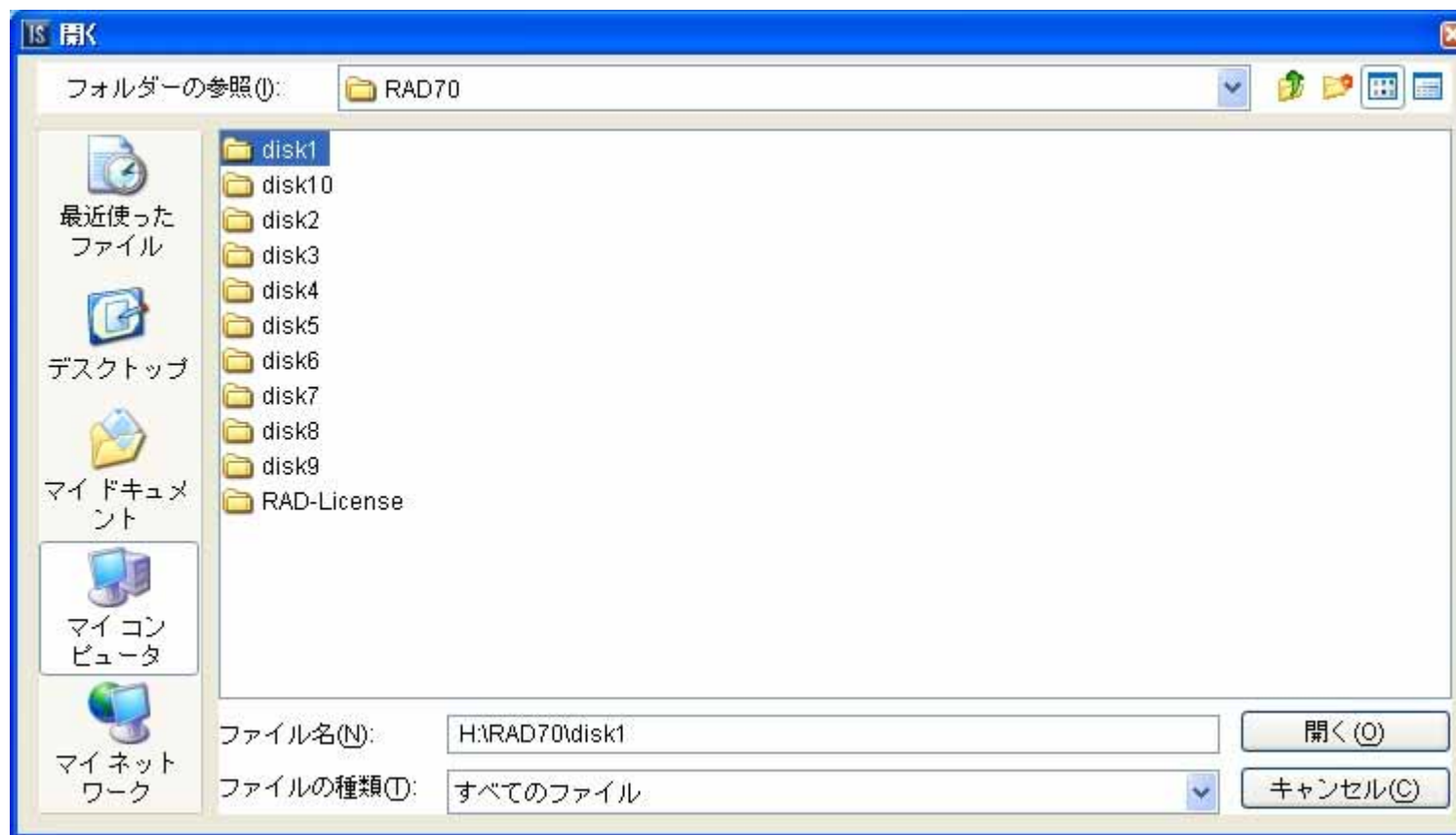
CD版WDZIはDISK1をPC
にコピーし下記を選択
・RADで cd、
・WDZで 電子イメージ



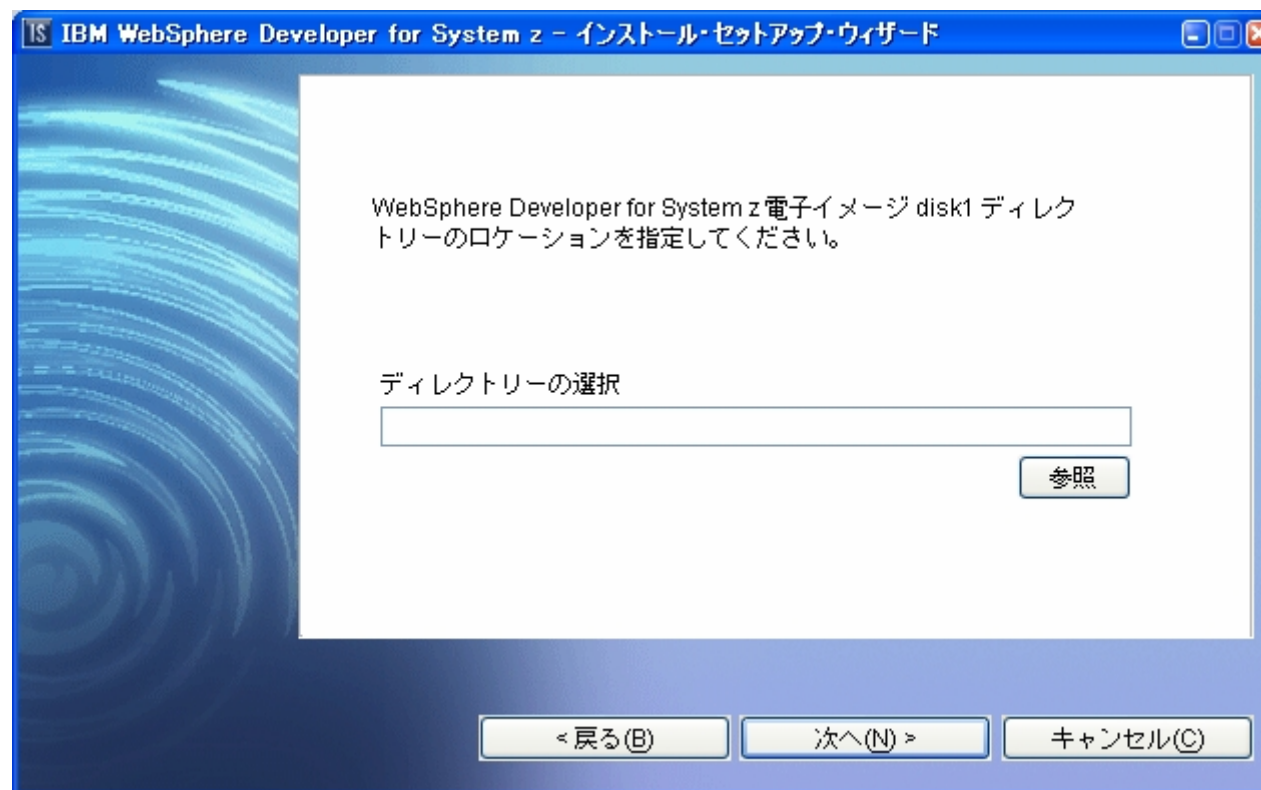
3. RADのディレクトリの選択画面で「参照」ボタンをクリック。



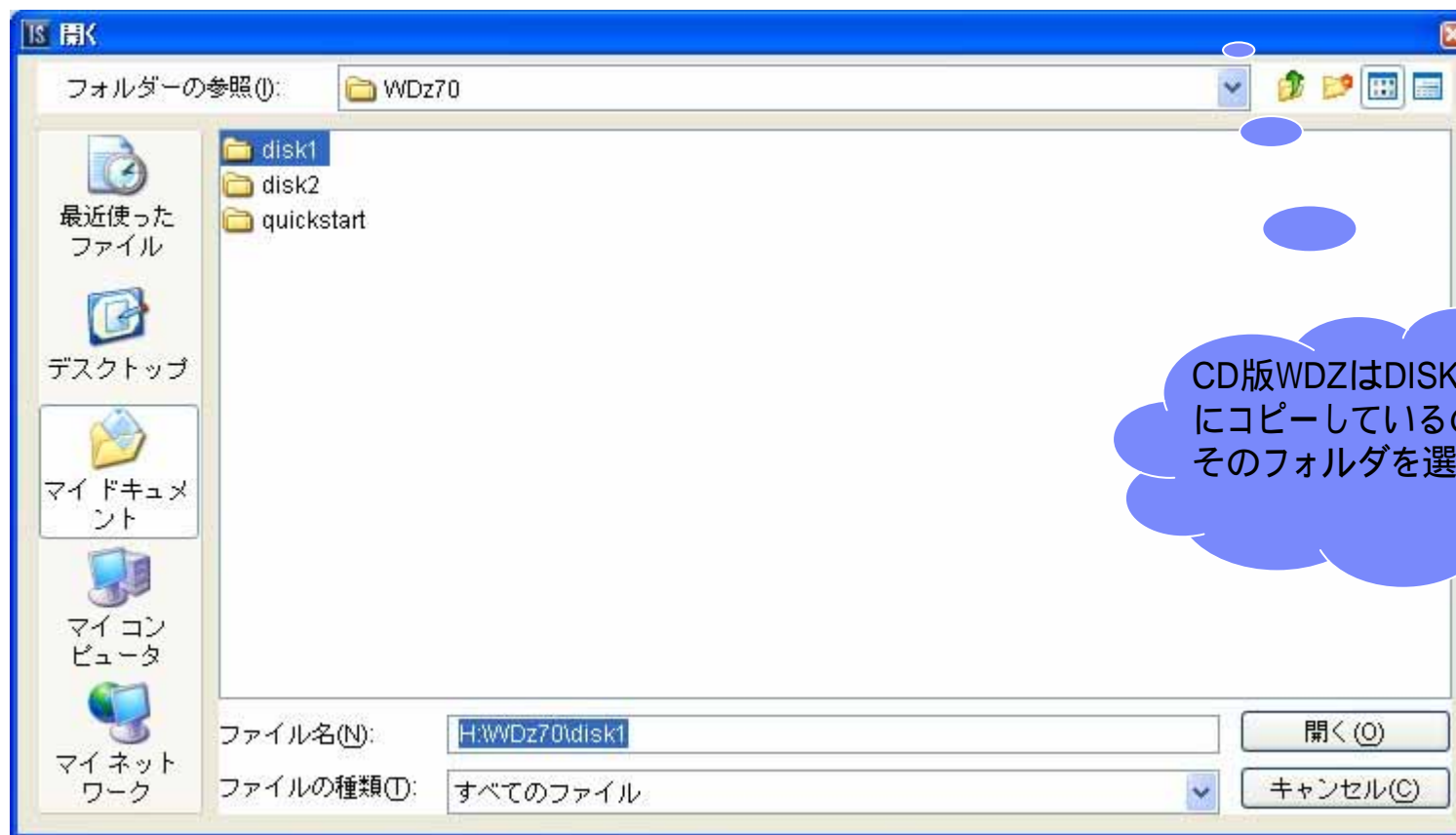
4. DVD1枚目のDISK1フォルダを選択し、「開く」ボタンをクリック。



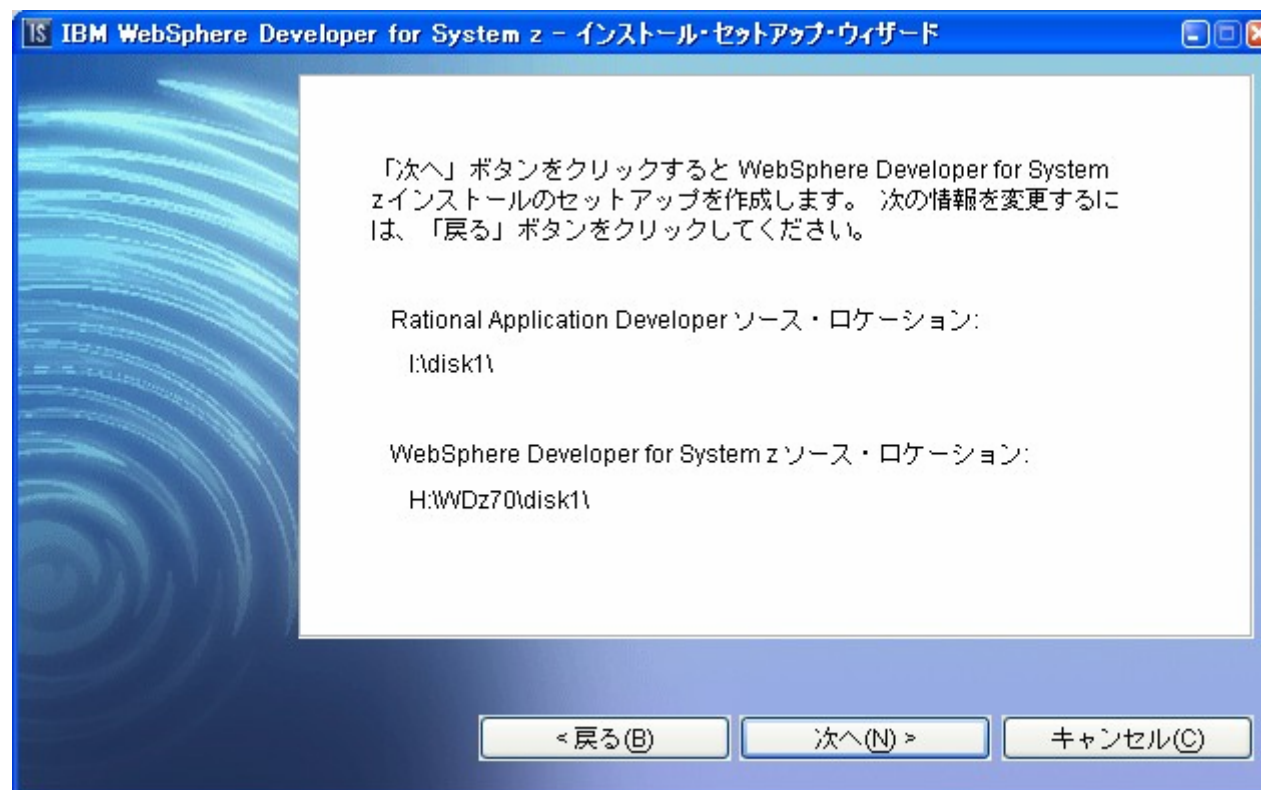
5. WdZのディレクトリの選択画面で「参照」ボタンをクリック。



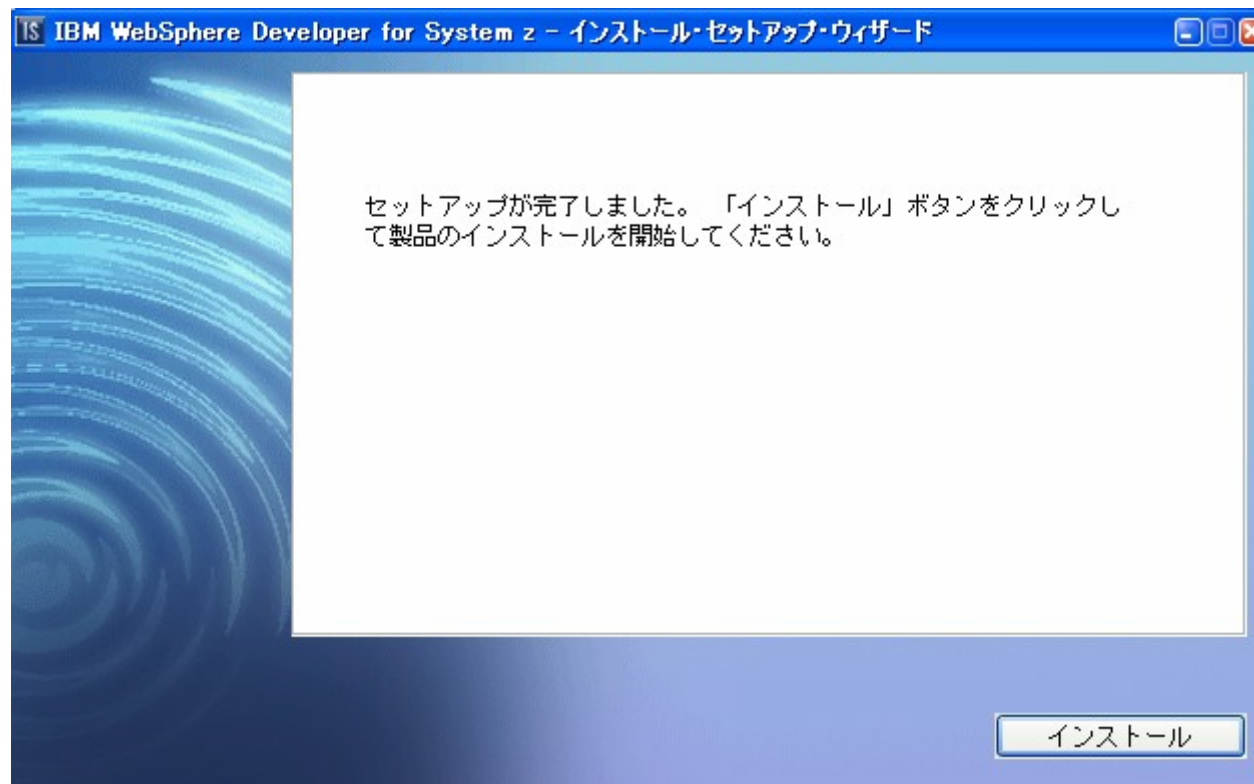
6. DVD 1 枚目の¥WDZ70¥DISK1 フォルダを選択し、「開く」ボタンをクリック。



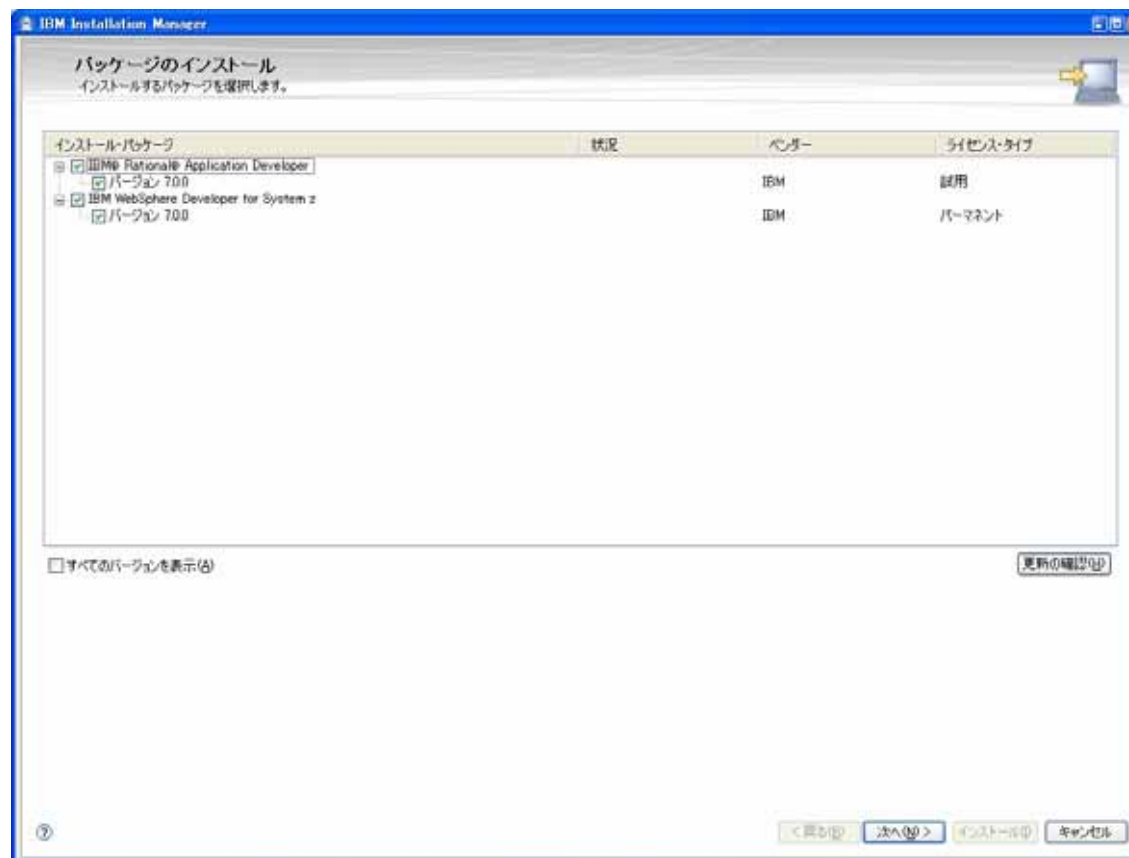
7. 「次へ」ボタンをクリック。



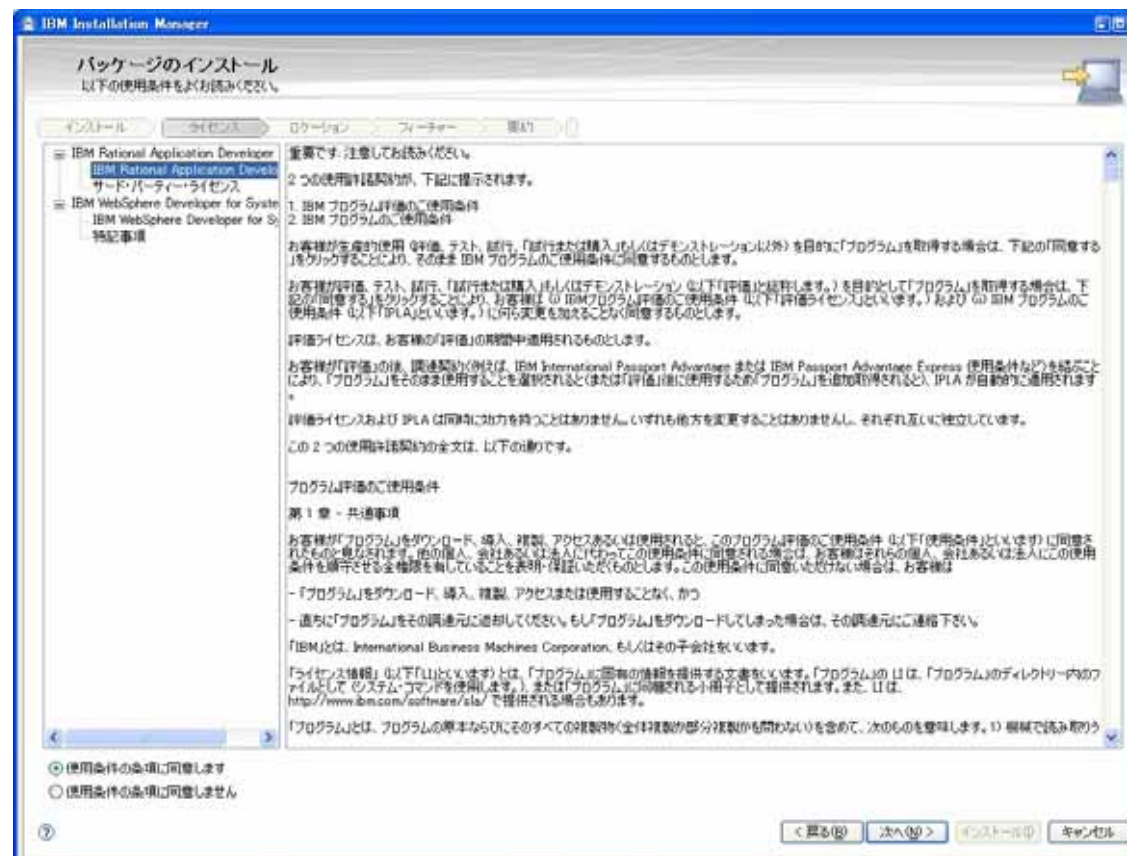
8. 「インストール」ボタンをクリック。



9. RAD、WDZパッケージのインストール確認画面ができてきます。「次へ」をクリック。

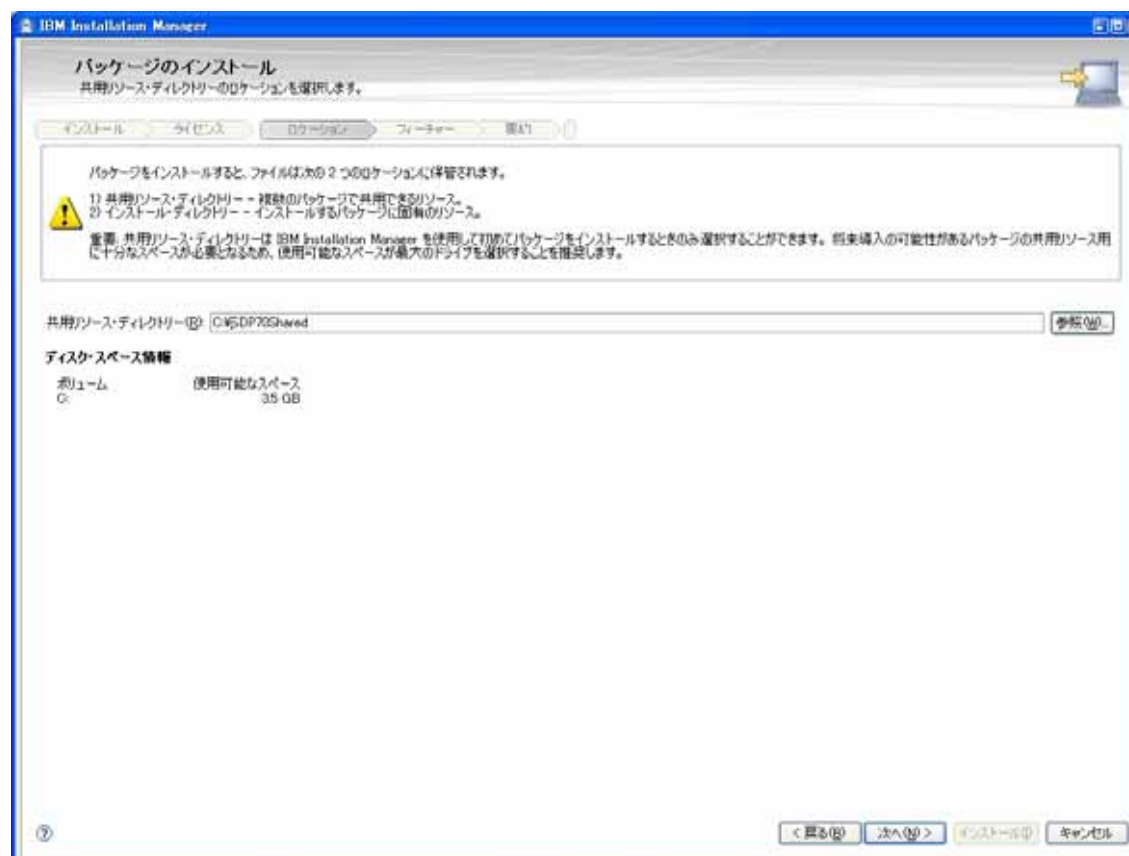


10. 使用許諾の確認画面で、「同意します」に マークをし、「次へ」ボタンをクリック。

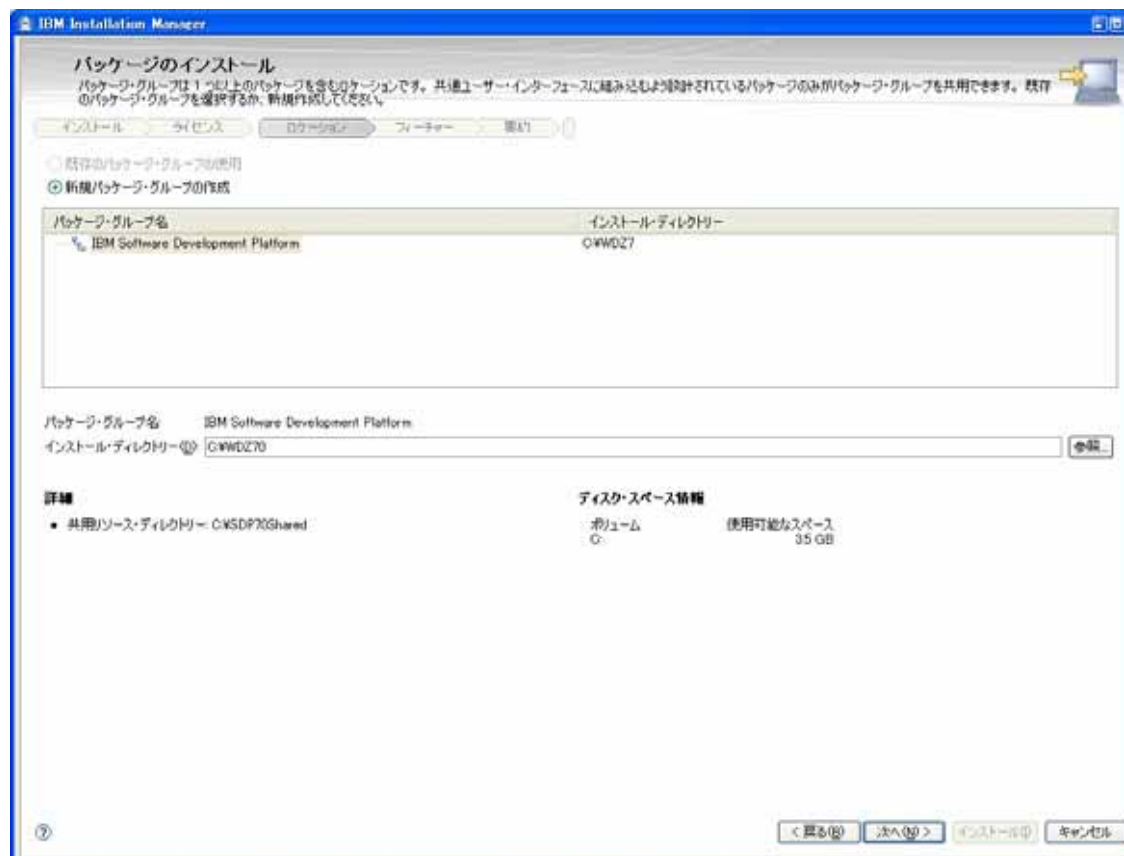


11. 共用ソースディレクトリとして inst-Drive:¥SDP70Shared を指定します

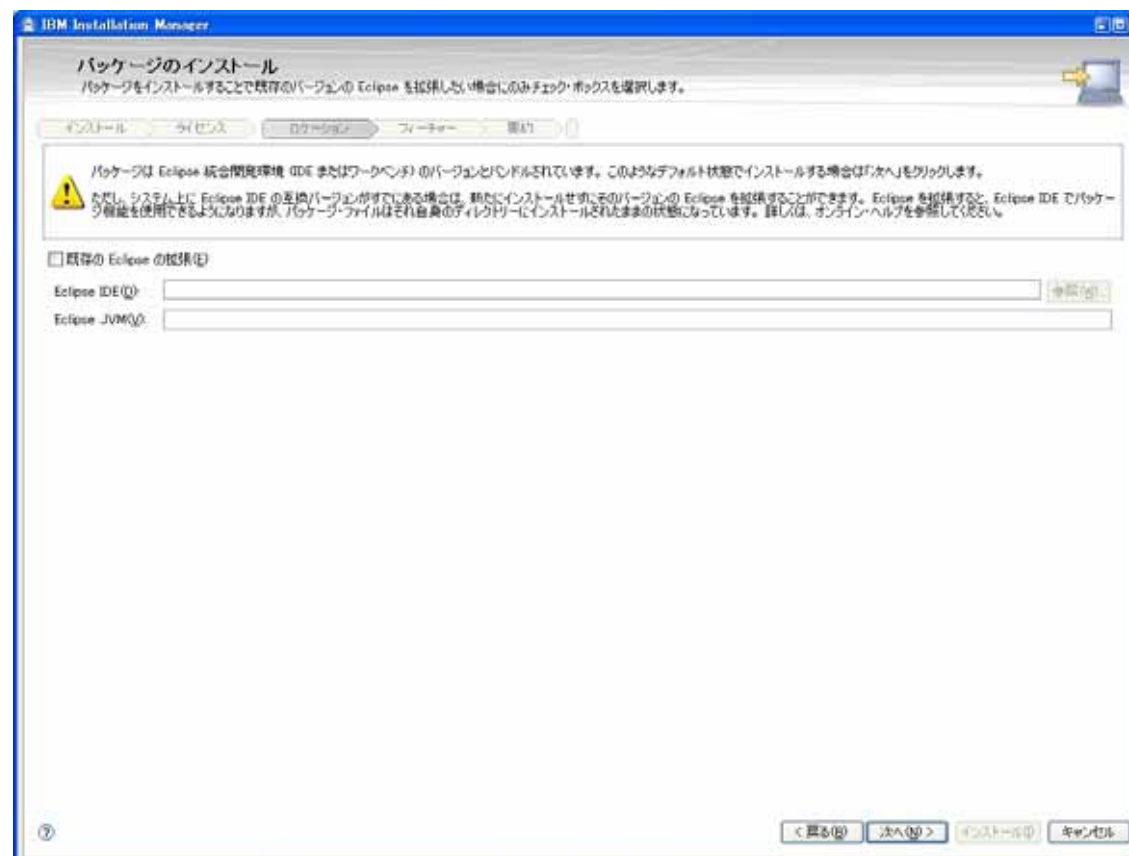
(デフォルトは、c:¥Program Files¥IBM¥SDP70Sharedですが、上記ディレクトリに変更してください)



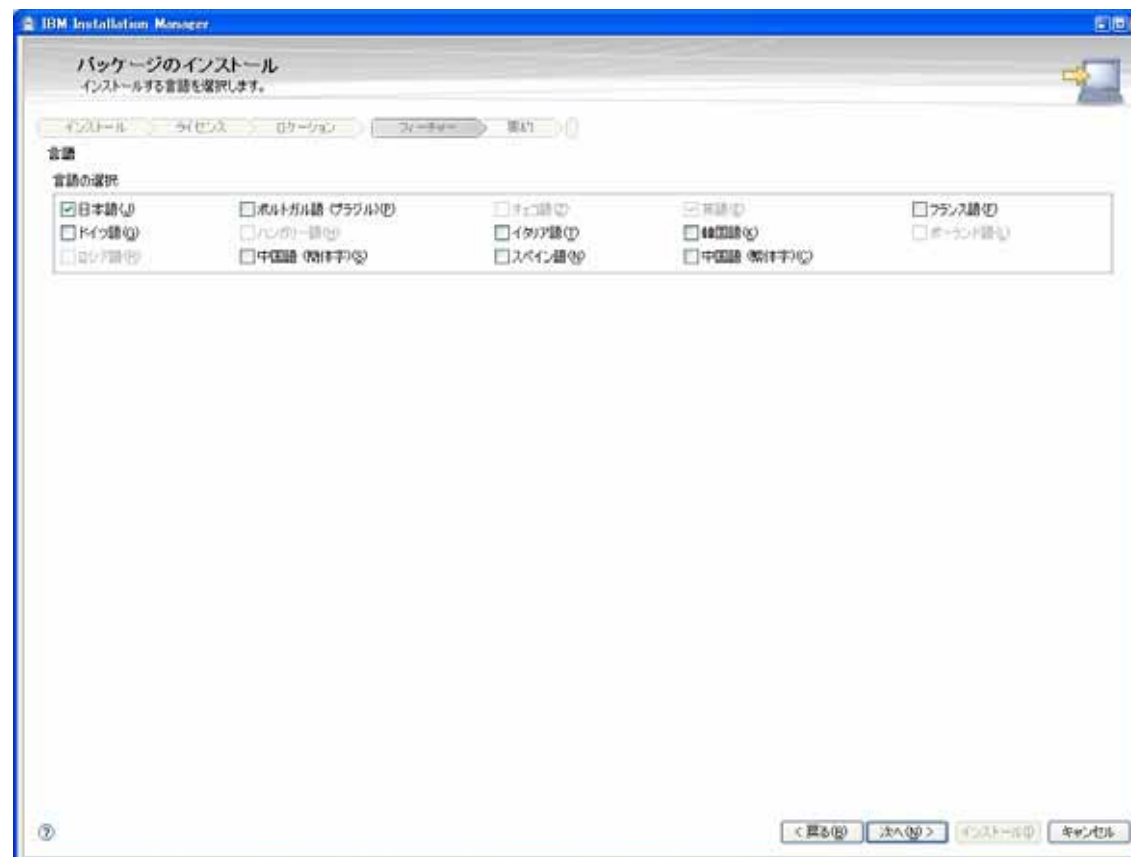
12. インストール先ディレクトリとしてinst-Drive:¥SDP70を指定し、「次へ」をクリック。
デフォルトは、¥Program Files¥・・・と長くなるとPATHの長さの上限でエラーになる可能性がある。



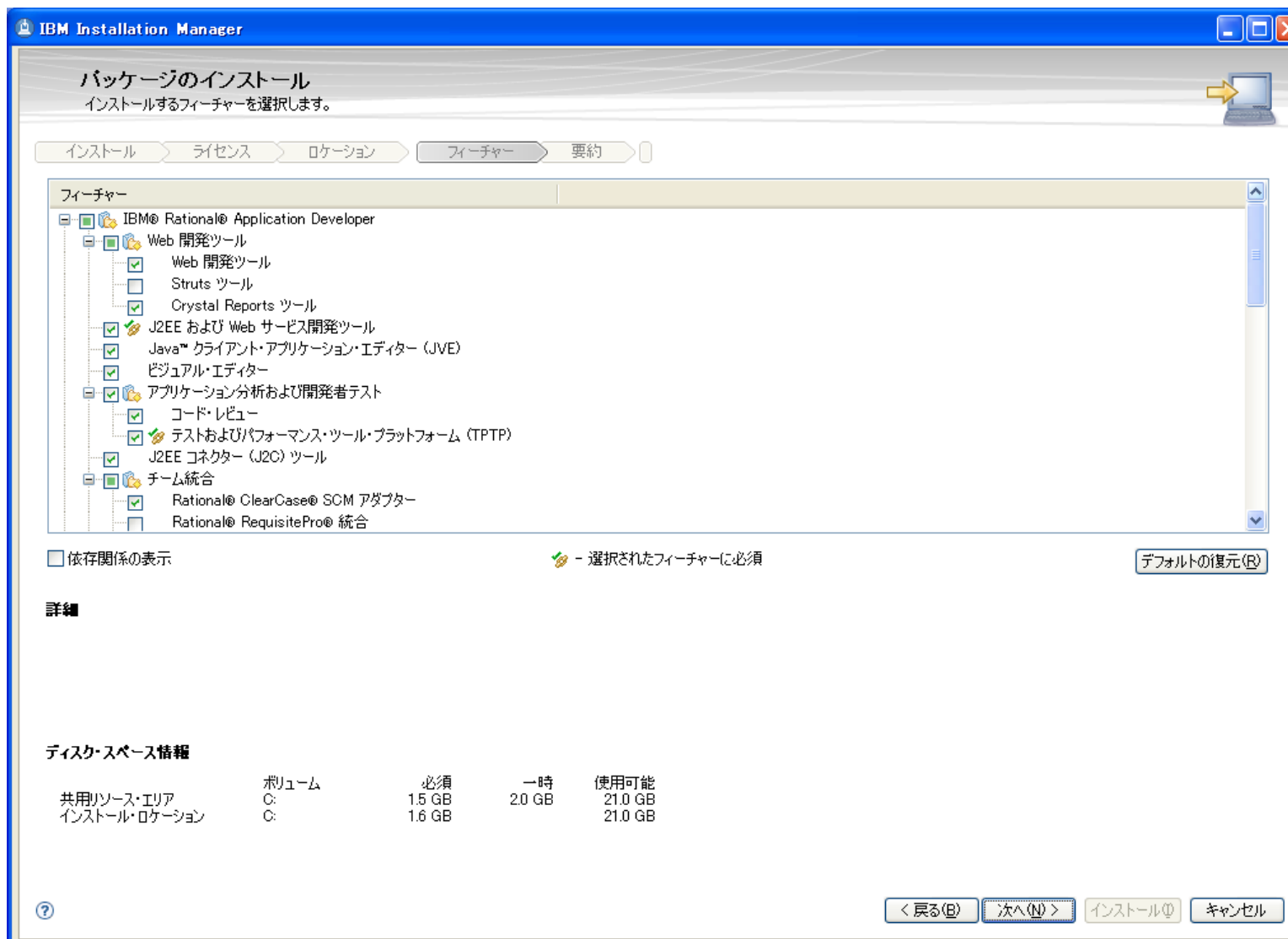
13. Eclipseの指定画面では新規導入で処理するため、指定せずに、「次へ」をクリック。



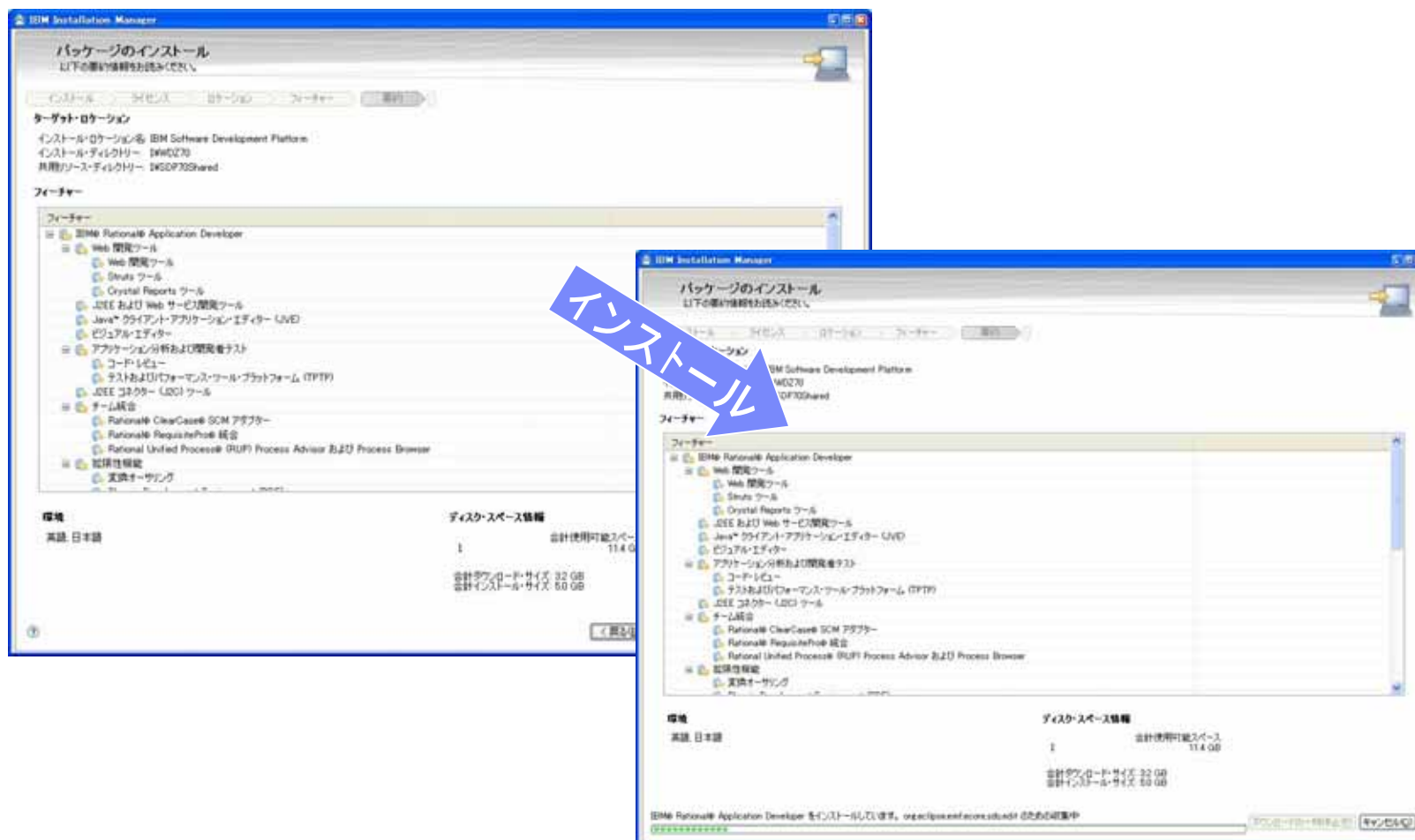
14. 言語の選択画面では、「日本語」を選択し、「次へ」をクリック。



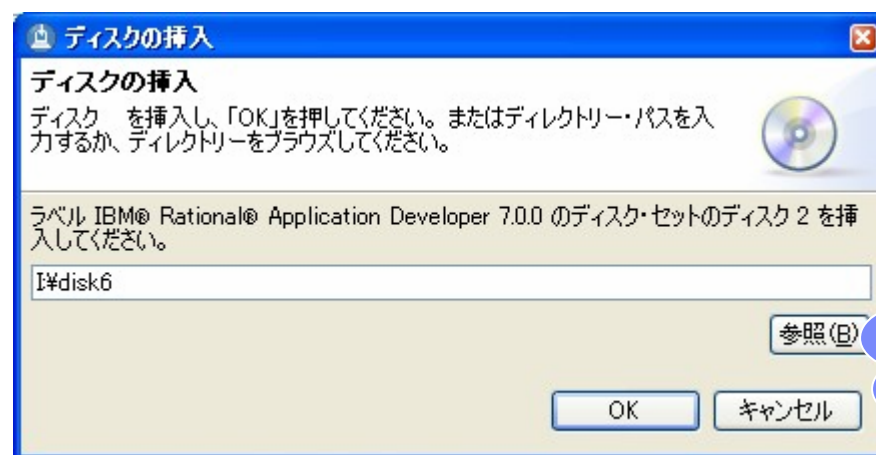
15. RAD、WDZのパッケージ選択画面では、デフォルトの状態ですべて「次へ」をクリック。



16. 確認画面が出てくるので、「インストール」をクリックする。



17. 次の画面が出たら、DVD#2を挿入し、dvd-Drive:¥disk6指定し「OK」ボタンをクリックする。

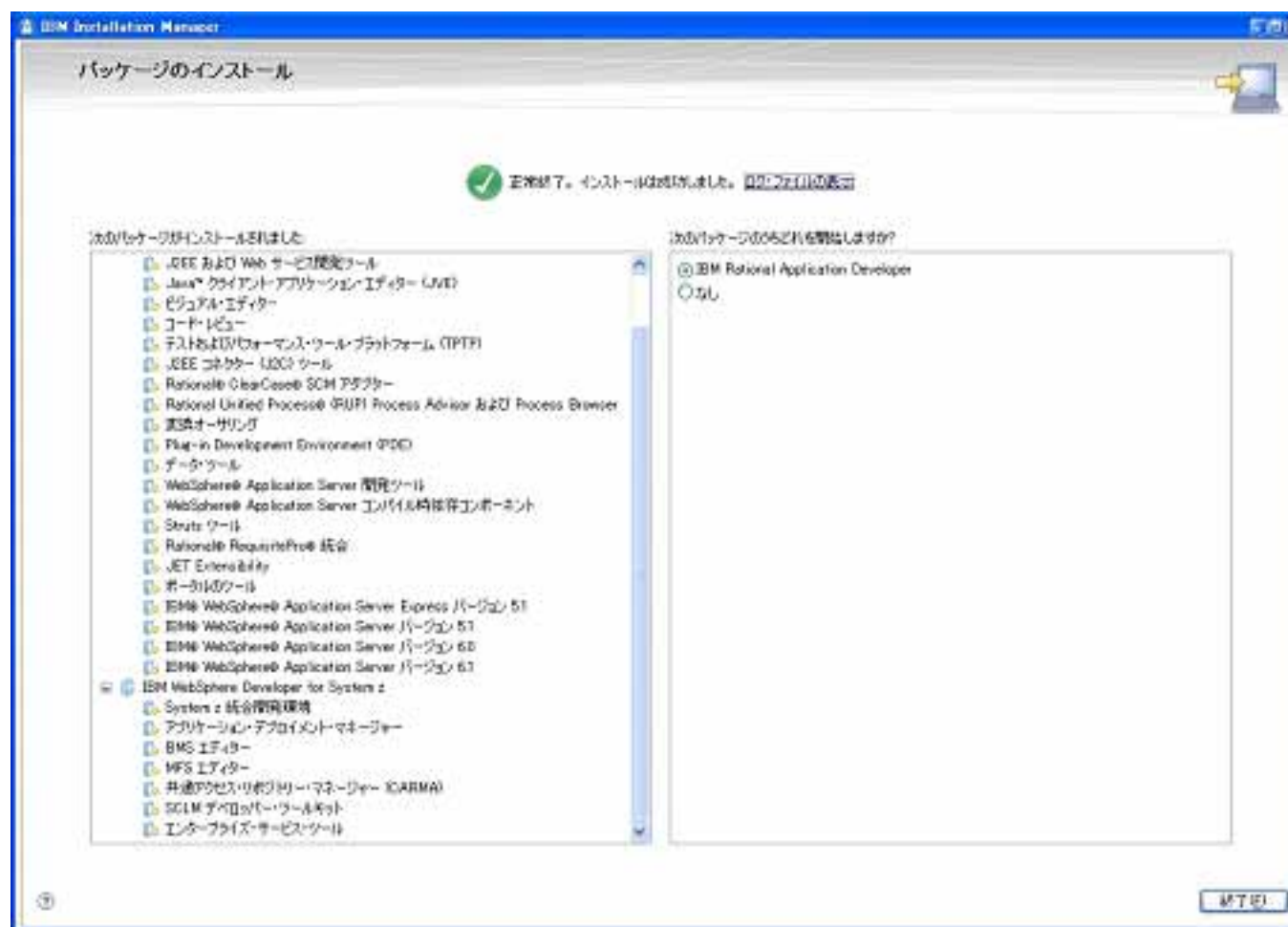


CD版WDZはRADの
CDを順番に挿入して
いく。

- 再度WDZのdisk1の確認画面が出たら、DVD#1を挿入し、「参照」ボタンからdvd-Drive¥wdz70¥disk1フォルダを選択し、「OK」ボタンをクリックする。



18. インストール完了画面が出て終了です。「終了」ボタンを押してインストール作業を終了します。終了後はPCを再起動してください。

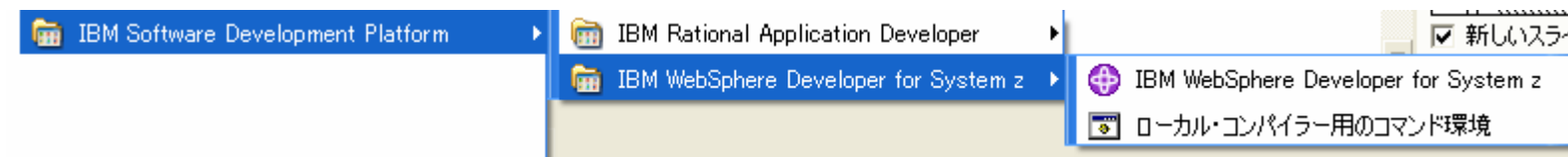


WDZ v7.0の起動

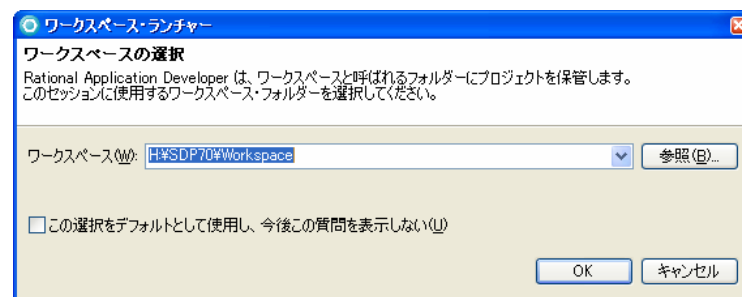
1. デスクトップ上のWDZアイコンをダブルクリック。もしくは、
「スタート」 - > 「すべてのプログラム」 - > 「IBM Software Development Platform」 - >
「IBM WebSphere Developer for System z」 - > 「IBM Websphere Developer for System z」から起動する。



もしくは



2. ワークスペース選択画面で inst-Drive¥SDP70¥Workspaceを入力し「OK」ボタンをクリック。

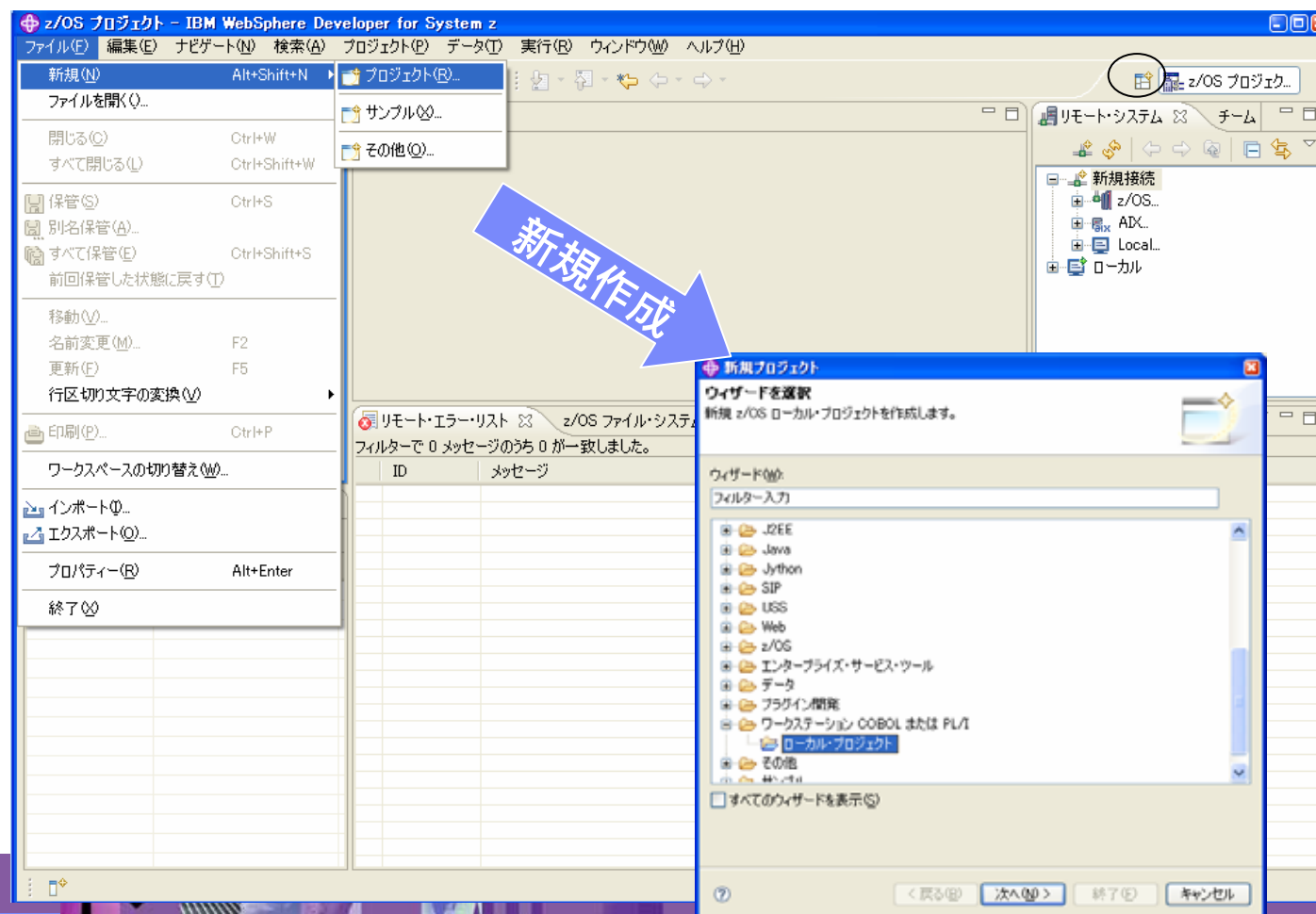


ようこそ
タブをダブル
クリック



3. WdZの初期画面が起動します。

パースペクティブボタン(○の箇所)をクリックし、「その他」からz/OSプロジェクトを選択
アクションバー「ファイル」 -> 「新規作成」 -> 「プロジェクト」から
ローカル開発用のプロジェクトを作成します。 次項で手順を説明。



サンプルプロジェクトの導入

プロジェクトは、WDZ以外の
エクスプローラなどから
削除しないでください

TESTEMPプロジェクト作成

1. ファイル > 新規 > プロジェクト >

ワークステーションCOBOLまたはPL/I > ローカル・プロジェクト > プロジェクト名 TESTEMP

- * 下記オプションを設定し、「終了」ボタンをクリック
 - ・COBOL プリプロセッサを起動にチェック
 - ・ビルドして作成 DLL

TESTDEVプロジェクト作成

1. ファイル > 新規 > プロジェクト >

ワークステーションCOBOLまたはPL/I > ローカル・プロジェクト > プロジェクト名 TESTDEV

- * 何も設定せず「次へ」で進み、「終了」ボタンをクリック

サンプルからのローカル・プロジェクト(LocalSampleProject)の作成

1. WebSphere Developer ワークスペースの「ファイル」メニューから、「New (新規作成)」> 「その他」を選択します。
2. 「新規」ダイアログで、「サンプル」および「ワークステーション COBOL」を展開し「COBOL サンプル 1」を選択し、「次へ」をクリックします。
3. 「Example project (実例プロジェクト)」ダイアログで、「プロジェクト名」フィールドに「LocalSampleProject」と入力して、「完了」をクリックします。
4. ローカル・プロジェクトのビルド
プロジェクトをビルドするには、z/OS プロジェクト・ビューで「LocalSampleProject」を右クリックして、「プロジェクトを再ビルド」をクリックします。ビルドはエラーなしで完了する必要があります。発生した場合、エラーはリモート・エラー・リストで報告されます。
5. ローカル・プロジェクトの実行
ビルドした実行可能ファイルを実行するには、以下の手順を実行します。
「LocalSampleProject」および「BuildOutput」を展開して、「StartApp.exe」をダブルクリックします。
入力を求められたら、名前を入力して Enter キーをクリック。確認メッセージが表示されます。
アプリケーションを終了するには、「Q」と入力して Enter キーをクリック。



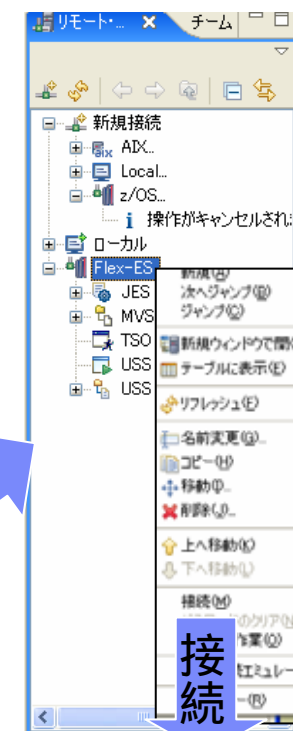
WDZ v7.0のリモート設定と接続

- ワークスペース上のリモート・システムから、「新規接続」 - z/OSをダブルクリックで作成
下記画面でリモート接続設定を作成。 **ホストの設定内容と合わせて下記を設定。**

宛先情報をセット

JESモニター設定 (デフォルト)

ホスト接続 (右クリック - 接続)



MVSファイル設定

USSファイル設定

USERID/PASSWORD を入力)